

1 安全・安心で、元気あふれるまちづくり

評価一覧（全33取組）	◎ 12件（37%）：進捗率100%以上
	○ 7件（21%）：進捗率50%以上 100%未満
	△ 5件（15%）：進捗率50%未満
	中止 9件（27%）：行事が中止になった

項目	課題と対応(必要性)	新規	継続	具体的な取組	指 標				2025年度	2030年度	新型コロナウイルス感染症の影響	実施時期 (変更があった場合の実施時期)	評価	取組内容	検証シートページ
					2019年度実績	2020年度（令和2年度）		2025年度							
(1)土砂災害等に対する備え	平成30年7月豪雨災害の教訓を踏まえ、「自分の命は自分で守る」という住民の防災意識を向上させ、防災まちづくりの更なる充実を図るため、防災マップの作成支援や防災訓練を行う。		○	(ア)防災マップを作り、災害に備えよう！	防災マップを作成した町内会数 新規目標数:18町内会、年度末実績:14町内会				196/196町内会(2023年)	更新	大	通年 (7月~3月)	○	作成予定の18町内会のうち、14町内会は作成・配付した。	1
				121/196町内会	139/196町内会	135/196町内会	78%								
(2)避難行動要支援者への支援	要支援者名簿の提供先が多岐にわたるため、地域団体ごとの役割分担を明確にし、相互に連携して取り組めるよう支援を行う。		○	(イ)「自助・共助・公助」のバランスが取れた防災訓練を実施しよう！	防災訓練を実施した地区数				4地区/年	4地区/年	大	9~3月	△	新型コロナウイルス感染症の影響により4地区のうち1地区(温品)のみの実施となった。	2
				4地区/年	4地区/年	1地区/年	25%								
(3)地区社協や町内会などの地域コミュニティの活性化	町内会役員の高齢化や担い手不足、町内会加入率の低下などの課題解決を図り、地域コミュニティの活性化に取り組む。		○	(ア)次世代の担い手を育成するための講演会に参加しよう！	対象者のうち、危険区域に居住し、かつ、家族等による支援を受けられない方について、個別計画を作成した地区数				13/13地区(2024年)	更新	大	通年	◎	実態調査の結果、「避難支援者がいない」「実態不明」と回答した77人のうち、3人(福田・馬木・矢賀各1人)の個別計画を作成した。	3
				4/13地区	6/13地区	6/13地区	100%								
(4)犯罪の起こりにくい安全なまちづくり	安全なまちづくりを進めるため、地域における危険な場所等を確認した上で、犯罪の抑止力になる防犯カメラや防犯灯の設置を支援する。		○	(イ)「“まるごと元気”地域コミュニティ活性化補助金」	講演会の参加者数				500人	500人	大	12月 (一)	中止	新型コロナウイルス感染症の影響により講演会は中止した。3月27日にオンラインで開催した『「地域コミュニティ活性化」を考えるシンポジウム』の視聴を地域団体へ呼び掛けた。	4
				2件/年	2件以上/年	3件/年	150%								
(5)交通事故のない安全なまちづくり	交通事故の件数は年々減少傾向にあるが、「ながらスマホ」などの交通マナーの低下(特に若年層)などが指摘されており、交通安全に対する意識の向上を図る。		○	(ア)地域の安全は地域で守ろう！	新規申請件数				20か所/年	20か所/年	小	通年	◎	地区社会福祉協議会等の団体への案内の送付や、全町内会長に送付する別事業の文書発送に併せて制度のお知らせを同封するなどして、より広く周知を図った。	5
				5台/6年平均	5台以上/年	3台/年	60%								
(5)交通事故のない安全なまちづくり	交通事故の件数は年々減少傾向にあるが、「ながらスマホ」などの交通マナーの低下(特に若年層)などが指摘されており、交通安全に対する意識の向上を図る。		○	(イ)防犯灯でまちを明るくしよう！	防犯カメラ設置補助制度を活用した設置台数				5台以上/年	5台以上/年	小	4~11月 (4~3月)	○	防犯カメラの設置台数が地区によって偏りがあることから、2月に「減らそう犯罪」推進部会委員に対し、地区ごとの設置台数を周知するとともに、設置補助制度の積極的な活用を呼び掛けた。	6
				20か所/年	20か所/年	18か所/年	90%								
(5)交通事故のない安全なまちづくり	交通安全街頭キャンペーン・自転車交通マナー教室の開催数		○	(イ)防犯灯でまちを明るくしよう！	防犯灯の新規設置か所数				6回以上/年	6回以上/年	大	通年 (一)	中止	密接・密集等を避けられないことから、街頭キャンペーン(年4回)と自転車マナー教室(年2回)は中止したが、庁内放送及びのぼり旗の掲示、Facebookにより啓発活動を行った。	8
				6回	6回以上/年	0回/年	0%								

東区まちづくりプラン 2020年度（令和2年度）実績

2 みんなで支え合うまちづくり

項目	課題と対応(必要性)	新規	継続	具体的な取組	指標				新型コロナウイルス感染症の影響	実施時期 (変更があった場合の実施時期)	評価	取組内容	検証シートページ
					2019年度実績	2020年度(令和2年度)							
					目標値	年度末実績	進捗率						
(1) 認知症の人やその疑いがある人の増加に伴う対応	認知症の人やその疑いがある人の増加が見込まれるため、認知症の人とその家族を地域で支える仕組みを作る。		○	(ア) 認知症サポーターになろう!	認知症サポーター養成講座の実施校数				大	通年 (7月~3月)	△	新型コロナウイルス感染症による臨時休校の影響で、多くの学校が実施困難となったが、校長会等で可能な範囲での協力を依頼し、9校で実施した。	9
				小学校11/12、中学校6/6、高等学校4/5、大学2/2	小学校12/12 中学校6/6 高等学校5/5、大学2/2	小学校2/12 中学校4/6 高等学校2/5、大学1/2	36%	小学校12/12 中学校6/6 高等学校5/5、大学2/2					
(2) 高齢者の健康づくり、介護予防の推進	介護を要する高齢者の増加が見込まれるため、地域団体等と協力して介護予防拠点を増やし、自ら健康づくりに取り組む高齢者を増やす。		○	(イ) 認知症支えあいカフェを広めよう!	認知症支えあいカフェの設置地区数				大	通年 (6月~3月)	◎	2地区(早稲田、温品)において、新規に認知症支えあいカフェを設置した。感染症の再拡大により、全てのカフェが活動休止したが、3月末時点で徐々に再開している。	10
				8/13地区	9/13地区	10/13地区	200%	13/13地区 (2024年)					
(3) 地域ぐるみの子育て支援	子育て中の親子が利用しやすいよう、地域団体と連携し、子育てオープンスペースの実施回数や実施箇所数を増やすとともに、多世代交流など多様な実施内容を取り入れ、参加者数を増やす。		○	いきいき百歳体操に取り組もう!	拠点数と参加者数				大	通年 (6月~3月)	◎	新型コロナウイルス感染症の再拡大によりほとんどの拠点が活動休止となったが、3月末時点で93%が活動を再開している。	11
				73拠点 1,685人	99拠点 1,980人	97拠点 2,276人	200%	155拠点 3,100人					
(4) 地域共生社会の実現に向けた取組	少子化・高齢化が進み、現在の制度では対応できないケースが増えてくることや予測されるため、地域住民や地域の多様な団体が連携し、世代や制度・分野ごとの「縦割り」を超えてつながること、子ども、高齢者、障害者など、全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる社会を実現する。		○	(ア) 「東区地域支えあいリスト」の掲載件数を増やそう!	地域支えあいリストの掲載件数				大	9月	◎	「地域の通いの場」として新たに「こども食堂」の情報を追加する等により、掲載件数を増やした。また、7月に、新たに区内19か所の郵便局にリストを設置して区民への周知を図った。	13
				296件	313件	326件	176%	374件					
(5) 地域で取り組む生活習慣病予防	平均寿命と健康寿命の差が大きいこと、食生活や運動などの生活習慣を改善するとともに、疾病や、加齢に伴う心身機能の低下(フレイル)の早期発見のため、健診受診者を増やすことにより健康寿命を延ばす。		○	(イ) 医師会や歯科医師会等の医療介護関係者と地域団体が連携した活動を増やそう!	医療介護関係者と地域団体が連携した地区数				大	通年 (7月~3月)	◎	認知症支えあいカフェ2か所の新規立ち上げに当たり、医療介護関係者が支援を行った。また、高齢者の通いの場3か所に薬剤師を派遣し、健康教育を実施した。	14
				—	2/13地区	4/13地区	200%	13/13地区					
(6) 地域で取り組む生活習慣病予防	平均寿命と健康寿命の差が大きいこと、食生活や運動などの生活習慣を改善するとともに、疾病や、加齢に伴う心身機能の低下(フレイル)の早期発見のため、健診受診者を増やすことにより健康寿命を延ばす。		○	(ウ) 地域共生社会実現のため、多世代交流の場を立ち上げよう!	多世代の交流の場の開催地区数				大	通年 (7月~3月)	◎	新型コロナウイルス感染症の影響で収益が減少した障害者支援事業所の販路拡大のため、2か所の郵便局において、自主製品の販売を実施した。	15
				2/13地区	4/13地区	4/13地区	100%	13/13地区					
(7) 地域で取り組む生活習慣病予防	平均寿命と健康寿命の差が大きいこと、食生活や運動などの生活習慣を改善するとともに、疾病や、加齢に伴う心身機能の低下(フレイル)の早期発見のため、健診受診者を増やすことにより健康寿命を延ばす。		○	(エ) 要支援者を地域で支えよう! 【再掲】1-(2)	対象者のうち、危険区域に居住し、かつ、家族等による支援を受けられない方について、個別計画を作成した地区数				大	通年	◎	実態調査の結果、「避難支援者がいない」「実態不明」と回答した77人のうち、3人(福田・馬木・矢賀各1人)の個別計画を作成した。	3
				4/13地区	6/13地区	6/13地区	100%	13/13地区 (2024年)					
(8) 地域で取り組む生活習慣病予防	平均寿命と健康寿命の差が大きいこと、食生活や運動などの生活習慣を改善するとともに、疾病や、加齢に伴う心身機能の低下(フレイル)の早期発見のため、健診受診者を増やすことにより健康寿命を延ばす。		○	(ア) 元気じゃ健診を受けよう!	特定健康診査受診率				大	通年 (6月~3月)	○	新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えがあるため、区役所等での啓発動画やFacebook、地域でのチラシ配布等、受診率向上に向けたPRを積極的に行った。	16
				20.4%	35%	18.5% (3月末暫定値)	53%	50% (2023年度)					
(9) 地域で取り組む生活習慣病予防	平均寿命と健康寿命の差が大きいこと、食生活や運動などの生活習慣を改善するとともに、疾病や、加齢に伴う心身機能の低下(フレイル)の早期発見のため、健診受診者を増やすことにより健康寿命を延ばす。		○	(イ) 野菜摂取量を増やすため、地元の野菜を食べよう!	地元野菜を活用したレシピの数				大	通年 (7月~3月)	◎	魚を含めた野菜のレシピを作成し、Facebookや地域包括支援センター便りに掲載した。区役所食堂及び常設オープンスペース等でもレシピ配布を行った。	17
				—	2品/年	2品/年	100%	2品/年					
(10) 地域で取り組む生活習慣病予防	平均寿命と健康寿命の差が大きいこと、食生活や運動などの生活習慣を改善するとともに、疾病や、加齢に伴う心身機能の低下(フレイル)の早期発見のため、健診受診者を増やすことにより健康寿命を延ばす。		○	(ウ) 東区を歩いて、運動習慣を身につけよう!	「健康ウォーキングのつどい」の60歳未満参加者割合				大	10月 (—)	中止	健康ウォーキングの集いは中止。感染対策の上、上温品学区でウォーキング教室を開催し自主グループ化に向けて支援した。また、温品学区社会福祉協議会のウォーキングの取組を好事例とし、他の地域へ紹介した。	18
				6%	10%以上	0%	0%	20%以上					

東区まちづくりプラン 2020年度（令和2年度）実績

3 地域資源を生かした個性豊かなまちづくり

項目	課題と対(必要性)	新規	継続	具体的な取組	指標				2025年度	2030年度	新型コロナ感染症の影響	実施時期 (変更があった場合の実施時期)	評価	取組内容	検証シートページ	
					2019年度実績	2020年度(令和2年度)										
					2019年度実績	目標値	年度末実績	進捗率								
(1)二葉の里歴史の散歩道などの活用	二葉の里歴史の散歩道の認知度をさらに上げていくために、外国人旅行者や幅広い世代に関心を持ってもらう取組を進める。		○	(ア)「ふたばの日」ガイドツアー参加者を増やそう!	年間参加者数	815人 (2018年)	830人	0人	0%	871人	911人	大	通年 (一)	中止	予約なし・人数制限なしで不特定多数が参加する「ふたばの日」は中止した。新しい生活様式を踏まえた予約制の「いつでもガイド」は、32回実施し、110人が参加した。	19
				(イ)「夏の夜、祈りと平和の夕べ」の来訪者を増やそう!	イベントの来訪者数	1,900人	2,000人	0人	0%	2,250人	2,500人	大	8月 (一)	中止	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、「夏の夜、祈りと平和の夕べ」を中止した。	20
(2)都心の近くにある自然とのふれあいの促進	都心の近くにある自然に親しむことのできる場所や、ハイキングコースなどの認知度が十分でないことから、今後も広く住民や観光客に周知し、その活用を促す。		○	(ア)自然観察の楽しさを広めよう!	年間参加者数	198人	200人	59人	30%	250人	250人	大	通年 (11月)	△	4月～10月の各自然観察会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、中止となった。11月の「秋の自然観察会」は、感染症対策を行った上で実施した。	21
				(イ)都心に近い「牛田山」の魅力を伝えよう!	牛田山ハイキング参加者数	177人	180人	0人	0%	200人	200人	大	11月 (一)	中止	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、共催の東区スポーツセンター、公民館、学区体育協会と協議した結果、「牛田山ぐるっとハイキング」を中止した。	22
				(ウ)地域主催のハイキングイベントを増やそう!	ハイキングイベントの新規実施件数	4件/年	1件/年	1件/年	100%	1件/年 (2022年度)	累計3件	大	通年 (11月)	◎	11月に温品公民館で高尾山のハイキングイベントを実施した。尾長山・大内越山でのハイキングイベント実施に向けて、二葉公民館と協議した。	23
(3)地域資源を生かした住民主体の活動の推進	東区の魅力や活力をさらに高めていくために、地域資源を生かしたまちづくりを進める団体等に積極的に制度の情報提供を行い、活動する団体を増やす。		○	「魅力と活力向上推進事業補助金」	新規申請件数	4件	4件以上/年	2件/年	50%	4件以上/年	4件以上/年	大	通年	○	地区社会福祉協議会等の団体への案内の送付や、全町内会長に送付する文書発送に併せて制度のお知らせを同封するなどして、より広く周知を図った。	24
(4)大学との地域連携によるまちづくり	地域の大学と包括的な連携のもと、それぞれの持つ人材、知識、情報などの資源を活用し、地域の発展と人材の育成を図る。		○	(ア)健康づくりに取り組む若者を育てよう!	健康展の出展回数	1回/年	2回/年	1回/年	50%	2回/年	2回/年	大	10月～11月 (11月)	○	健康展が中止となったため、11月6日に女学院大学1年生及び教職員300名を対象とした講演会をオンラインで開催し、健康づくりに関する啓発を行った。	25
				(イ)命の大切さや思いやりの心を育もう!	大学生による常設オープンスペースでの、親子で遊べるイベント開催件数	1回/年	1回/年	1回/年	100%	1回/年	1回/年	大	12月 (3月)	◎	新型コロナウイルス感染症拡大状況を考慮し、比治山大学生による親子ふれあい遊びを3月17日にオンラインで実施し、14組の親子が参加した。	26
(5)スポーツにふれあう機会の充実	東区の魅力資源であるイズミメイプルレッズの応援や、誰もが気軽に取り組むことができるニュースポーツの体験などを通じて、全ての住民がスポーツにふれあう機会を充実させる。		○	(ア)地元トップアスリートに応援しよう!	東区応援団の参加者数	90人	100人	0人	0%	150人	200人	大	9月～2月 (一)	中止	新型コロナウイルス感染症の影響により、応援隊を結成しての応援はできなかったが、オンライン観戦の呼び掛けや、学区体育協会の方たちのメッセージを届けるなどの方法で応援した。	27
				(イ)高齢者や障害者等、全ての区民が気軽にスポーツに参加する機会を広げよう!	ニュースポーツを体験するイベントの年間実施回数	3回	3回	0回	0%	3回	3回	大	5月、7月、12月 (一)	中止	例年参加者が多い3つのイベントは今年度全て中止となったが、来年度の開催に向けて、引き続きスポーツセンター・体協と協議を行った。	28
(6)都心に近い農業地域の活力向上	「木曜であい市」の来場者数が減少傾向にあるため、「木曜であい市」の認知度を高め、来場者数を増やす。		○	「木曜であい市」でおいしい地元野菜をアピールしよう!	年間来場者数	4,444人/2017年 3,500人/2018年	4,000人	0人	0%	4,250人	4,500人	大	通年 (一)	中止	1月再開予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策の再拡大を受け、生産者と協議し、中止した。	29
(7)地域の魅力の継承	子ども達が地域の歴史や自然を学習する機会が少ないため、東区の魅力である地域資源を継続して伝えていく。		○	子どもたちに地域の魅力を伝えよう!	3者が学習支援を実施する学校等の数	4校/年	4校/年	3校/年	75%	7校/年	9校/年	小	5月～11月 (6月～10月)	○	矢賀小(6・11月)、尾長小(10月)及び牛田小(10月)に対して学習支援を実施した。	30

東区まちづくりプラン 2020年度（令和2年度）実績

4 おもてなしの心あふれるまちづくり

項目	課題と対応(必要性)	新規	継続	具体的な取組	指 標				2025年度	2030年度	新型コロナ 感染症 の影響	実施時期 (変更があった 場合の 実施時期)	評価	取組内容	検証 シート ページ		
					2019年度 実績	2020年度（令和2年度）											
						目標値	年度末実績	進捗率									
(1)陸の玄関口であるJR広島駅新幹線口周辺地区（エキキタ）のにぎわいづくり	「エキキターレ」を活用するなど、季節ごとに実施されるイベントの内容の充実を図りながら、「エキキタ」の認知度を高めていく。		○	(ア)「エキキターレ」をエキキタのにぎわい広場として盛り上げよう！	イベント等でのエキキターレの利用日数	30日/年	30日/年	6日/年	20%	100日/年	150日/年	大	通年	△	新型コロナウイルス感染症の影響により利用は6日間となった。また、元気なまちづくりプロジェクト補助金を活用してエキキターレの環境整備を行った。	31	
				(イ)「エキキタ・ドリミネーション」を、エキキタのインスタスポットに育てよう！	参加企業・店舗数	20企業・店舗	25企業・店舗	25企業・店舗	100%	30企業・店舗	35企業・店舗	小	7月～1月 (7月～12月)	◎	元気なまちづくりプロジェクト補助金を活用して無償貸出用のイルミネーション機材を購入し、参加店舗の増加を図った。	32	
				(ウ)「ふたばの日」ガイドツアー参加者を増やそう！ 【再掲】3-(1)-(ア)	年間参加者数	815人 (2018年)	830人	0人	0%	871人	911人	大	通年 (一)	中止	予約なし・人数制限なしで不特定多数が参加する「ふたばの日」は中止した。新しい生活様式を踏まえた予約制の「いつでもガイド」は、32回実施し、110人が参加した。	19	
				(エ)「夏の夜、祈りと平和の夕べ」の来訪者を増やそう 【再掲】3-(1)-(イ)	イベントの来訪者数	1,900人	2,000人	0人	0%	2,250人	2,500人	大	8月 (一)	中止	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、「夏の夜、祈りと平和の夕べ」を中止した。	20	
				(オ)「魅力と活力向上推進事業補助金」 【再掲】3-(3)	新規申請件数	4件	4件以上/年	2件/年	50%	4件以上/年	4件以上/年	大	通年	○	地区社会福祉協議会等の団体への案内の送付や、全町内会長に送付する文書発送に併せて制度のお知らせを同封するなどして、より広く周知を図った。	24	
(2)産直市などによる交流の場の創出	「木曜であい市」の来場者数が減少傾向にあるため、「木曜であい市」の認知度を高め、来場者数を増やす。		○	「木曜であい市」でおいしい地元野菜をアピールしよう！ 【再掲】3-(6)	年間来場者数	4,444人/2017年 3,500人/2018年	4,000人	0人	0%	4,250人	4,500人	大	通年 (一)	中止	1月再開予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策の再拡大を受け、生産者と協議し、中止した。	29	
(3)公共空間（公園等）を活用した花づくり	花づくりを行える公園等の公共用地で、まだ活用されていない場所が見受けられるため、支援制度の広報に力を入れ、活動を充実・強化する。		○	東区を花でいっぱいにしよう！	花づくり活動団体数		40団体	42団体	45団体	250%	50団体	55団体	小	通年	◎	「市民と市政」やFacebookへの掲載などの広報に努めた結果、支援団体が5団体増加した。	33